

TOHOKU UNIVERSITY ARCHIVES NEWSLETTER



Index

- 2 東北大学史料館の
リニューアルオープンと
創立50周年
東北大学史料館 永田英明
- 4 黒田チカと牧田らく
お茶の水女子大学歴史資料館
志賀祐紀
- 6 資料の公開について
- 7 史料館のうごき
- 8 お知らせ
・秋の土日開館と企画展のご案内

資料：大正2年度理科大学入学
選抜試験問題

2段階の入試問題ー最初的女子学生たちの受験ー

百年前、東北大学に3名の女性が入学し日本初の女性大学生となったことはよく知られています。彼女たちが東北帝国大学を受験した際の試験問題が、公文書の中に記録され残っています。

実は彼女たちは入試に際し、2段階の試験を受けています。大学で勉強していく基礎的学力が身についているかどうかを試す「入学試験」と、定員を超えた受験者の中から合格者を絞り出す「選抜試験」。写真では左側が化学科の選抜試験問題、右側が数学科および物理学科の入学試験問題の一部です。当時の東北帝大では、旧制高等学校卒業者を先に入学させ、その後残った枠に旧制高校以外の出身者を入れていました。しかも東京高等工業学校などの出身者は旧制高等学校に準じるレベルの学校として入学試験（一次試験）を免除されていましたが、彼女たちの出た東京女子高等師範学校や日本女子大学はまだその認定を受けておらず、2段階の試験が課されたのです。

この試験問題、実は3人の女性が合格したあと、奈良の女子高等師範学校が今後志望者が出た場合の参考として東北帝大に照会したため、公文書の中に残ったものです。ただし実際に女性の学生が再び東北帝大に入るのは、1922年。東京・奈良の女高師から2人の女性が聴講生として理学部に入ります。翌年にはこの2人を含む4名が本科生として入学し、以後現在に至るまで女性の入学が続いています。

東北大学女子学生入学100周年記念企画展「女子学生の誕生ー100年前の挑戦」

平成25年9月27日(金)～12月27日(金) 史料館展示室にて開催中です。

東北大学史料館のリニューアルオープンと創立50周年

東北大学史料館 准教授 永田 英明

史料館のリニューアルオープン

片平キャンパス内の史料館本館は、東日本大震災による損壊の復旧と耐震補強工事のため昨年8月よりお休みをいただいております。工事は今年4月で一応完了し、6月からは閲覧公開業務をすでに再開しておりますが、9月27日（金）から展示室についても公開を再開することとなりました。

改修工事は、歴史的建造物としての価値を損なわないよう、外観など基本的なデザインをできるだけ維持することと、東北大学のアーカイブズとしての役割を今後も恒久的に果たしていくために必要な史料保存・公開環境の確保改善、この二つの両立という観点から設計・実施されました。

耐震性の強化という観点からは、史料館本館の東西両端の一区画内に壁厚のコンクリート建物をつくり、これと屋根内部の鉄骨トラスを組み合わせることで建物全体の強度を確保することとなりました。その結果館内には分厚い耐震壁で囲まれた3階建ての区画が東西につくられ、資料の収蔵庫として利用することとなりました。

一方改修前に2階と1階に分散していた展示スペースは、すべて2階中央部分の広大なスペースの中に統合されることになりました。2階展示室は附属図書館閲覧室として使われていた頃からの高い天井の空間をそのまま残しつつも、その内部を(1)常設展「歴史のなかの東北大学」、(2)魯迅記念展示室「魯迅と東北大学」という二つの常設展示室と第一・第二の二つの企画展示室、合計四つの展示室に区分して使うこととなります。

常設展示「歴史のなかの東北大学」は、従来の展示内容をベースにしながらも、展示パネルや一部展示物の更新によって内容も若干新しくなっています。東北大学百余年の歴史を、(1)創立時代、(2)総合大学としての確立、(3)戦時下、(4)戦後復興、(5)高度経済成長時代、(6)大学改革と法人化、といった時間軸の展示の中に学生生活や教員群像などをちりばめながら構成しています。展示室中央には、東北大学漕艇部が全日本大学選手権で3連覇を達成したとき使用した全長15メートルの木製ボートが鎮座しました。

魯迅記念展示室の展示は、基本的には従来と変わりありませんが、従来同様、文豪魯迅が文学の道を選ぶ場となった仙台での学生生活、藤野先生との心の交流をたどることができる構成となっています。



二つの企画展示室では、毎年恒例の企画展、旧制二高などの包摂学校に関する展示、新公開文書の速報展示や美術系・モノ系資料を中心とした「コレクション紹介展」など、大小様々な展示をおこなう場所として活用します。

展示室のオープニングとなる9月27日からは、第1企画展示室で「女子学生の誕生－100年前の挑戦」展を公開する予定です。100年前、東北帝国大学に入学し日本初の女性大学生となった黒田チカ・牧田らく・丹下うめら3人の「挑戦」について、大学に残された

数々の資料と、このたびご遺族から本学に寄贈されることとなった「黒田チカ資料」の展示を通じて、皆さんにご紹介する予定です。また10月には、日本思想史研究という分野の開拓者として知られる元法文学部教授・村岡典嗣を中心とした企画展「村岡典嗣」展も開催予定です。

閲覧室も、装いを新たにしました。歴史公文書や個人文書、学内刊行物などの資料は、ここで利用手続きをすればどなたでも閲覧することができます。また閲覧室内には東北大学に関わる様々な参考文献、国内多数の大学の沿革史等なども揃えられ、大学の歴史に関する専門図書室としても利用していただくことが可能です。



創立50周年をむかえて

実は今年は、東北大学史料館の前身である「東北大学記念資料室」が発足してからちょうど50年目の節目にあたります。これを記念し、来たる9月29日（日）には、わが国大学史研究の開拓者として早くから大学アーカイブズの重要性を積極的に唱えられてきた寺崎昌男氏（東京大学名誉教授・立教学院本部調査役）を講師に迎え、記念講演会「『大学アーカイブズ』とこれからの大学」を開催することとなりました。講演会ではまた日本を代表する大学アーカイブズである京都大学大学文書館の西山伸教授、東京大学史史料室の森本祥子特任准教授を加えてのパネルディスカッションも予定しており、これからの「大学アーカイブズ」の在り方を、大学や社会との関わりの中を探る機会と出来ればと考えております。またこれにあわせて、東北大学史料館のあゆみを紹介する「東北大学と大学アーカイブズの50年」展も開催します。

東北大学記念資料室は、わが国における「大学アーカイブズ」の先駆けとして、1963年に発足しました。『東北大学五十年史』の編さんと、当時奨励された行政効率化運動の中で文書管理の合理化が叫ばれる中で、歴史的公文書含む大学史資料の適切な保存のために学内措置で設けられたものです。当時このような大学自身の資料保存をおこなう施設は国内にはほとんどありませんでしたが、その後私立大学を中心に大学史編纂組織が資料保存をおこないはじめ、その後1980年代に『東京大学百年史』編さん終了を受けて、東京大学のアーカイブズとして「東京大学史史料室」が誕生しました。この流れは1990年代以降本格化し、国立大学含む多くの大学にアーカイブズ組織が置かれるようになってきました。その背景の1つは大学を廻る社会的環境が大きく変化し、個々の大学があらためてその個性や特色を強調していく必要が生じた、という点。もう1つは、情報公開法や公文書管理法といった行政情報の透明化に対する意識の高まりの中で、公文書が国民一般の共有財産であるという認識が高まってきたことです。こうした中で東北大学記念資料室は2000年に東北大学史料館となり、2011年には公文書管理法に対応したかたちで史料館内に「公文書室」「記念資料室」という2つの室を設けるなど体制整備を進め、現在に至っています。

震災のダメージをのりこえ、史料館はいま、「50年目の再出発」をしたばかりです。まだまだ課題は多いですが、今後とも引き続き、現在そして未来の多くの方々に対し適切な情報を提供していくことができるよう、改善を重ねていきたいと思っております。

史料館創立50周年記念講演会 「大学アーカイブズ」とこれからの大学

基 調 講 演：寺崎 昌男（東京大学名誉教授 立教学院本部調査役）
 パネルディスカッション：寺崎 昌男／西山 伸／森本 祥子／永田 英明
 平成25年9月29日（日） 13：30～ 東北大学金属材料研究所講堂にて

黒田チカと牧田らく

ー日本初の女子大学生誕生と東京女子高等師範学校・東北帝国大学

お茶の水女子大学歴史資料館 志賀祐紀



大正2（1913）年、東北帝国大学（以下、東北帝大）が日本で初めて女性に門戸を開放しました。お茶の水女子大学の前身である東京女子高等師範学校（以下、東京女高師）からは卒業生かつ当時の教員であった黒田チカ、牧田らく、江澤駒路の3名が入学試験に挑みました。このことは世を大きく賑わせ特に文部省は、「頗る重大ナル事件」として説明を求める文書を東北帝大に送ったほどでした。そして試験の結果、黒田、牧田、そして日本女子大学校（現：日本女子大学）から受験した丹下ウメが合格し、3名の日本初の女子大学生が誕生しました。

黒田チカは東北帝大では化学科に入学し、紫根^{しこん}の色素の構造研究に挑みました。大正5（1916）年に卒業し、我が国最初的女性理学士の一人となりました。その後は東京女高師で教鞭をとりながら、理化学研究所にて研究を続けています。そして、昭和4（1929）年に紅花の色素カーサミンの構造を決定し、その研究により日本で2番目の女性理学博士（化学の分野では初）となりました。

母校の東京女高師には、昭和24（1949）年に後継のお茶の水女子大学が開学した後も教授として勤め、昭和27（1952）年に68歳で定年退官しました。以降も、昭和38（1963）年まで非常勤講師として週1回の講義を続けています。お茶の水女子大学に残る東京女高師時代の卒業アルバムには教員としての黒田の写真がいくつも収められています。また、平成25（2013）年3月、お茶の水女子大学が所有する彼女の天然色素研究関連資料は日本化学会化学遺産（第019号）に認定され、後世に守り継がれていくこととなりました。

牧田らくは東北帝大では数学科に入学し、在学中に2本の論文を発表しました。大正5（1916）年に卒業し、黒田と共に我が国最初的女性理学士の一人となりました。そして、その年の7月に東京女高師の講師に就任しています。大正8（1919）年3月、かねてより婚約していた画家の金山平三と結婚し、翌年9月に東京女高師を辞職しました。家庭にありながらも研究に対する情熱を失わず、昭和8（1933）年に文献目録「Linkage 二関スル著作ノ目録」を完成させ、『東北数学雑誌』へ発表しています。

牧田は夫の画業を妻として懸命に支え、夫の死後はその業績を後世に残すことに奔走し、それは兵庫県立美術館開館の一つの契機となりました。牧田が遺した研究業績は決して多くはありません。しかしながら、家庭と研究を両立させようと挑んだ女性の先駆けとして、その生涯は魅力的であるといえるでしょう。

大正2（1913）年に東北帝大が行った女性への門戸開放の後、北海道帝国大学（現：北海道大学）、九州帝国大学（現：九州大学）などが女子学生の入学を許可しました。さらに、昭和4（1929）年4月、東京と広島高



黒田チカ研究業績標本「シコンとカーサミンの研究」[お茶の水女子大学ジェンダー研究センター]



黒田チカの授業風景[昭和14年/お茶の水女子大学附属図書館]



牧田らく旧蔵「林鶴一先生送別会」[明治43年頃/兵庫県立美術館]

等師範学校（現：筑波大学、広島大学）に文理科大学が設置されました。その入学資格には女子高等師範学校卒業者も含まれるとされ、共学の大学が開学しました。しかしながら、それらの大学への進学は入学資格や研究内容など、女性にとっては様々な課題がまだ残ったままでした。

そのような背景の下、大正期後半から昭和初期にかけて、女子高等師範学校を女子師範大学とする要望が東京女高師で高まり、大学への昇格運動が果敢に繰り広げられました。ところが、時代は戦時下に入り実現を見るには至らず、この大学昇格への願いは戦後の学制改革時に引き継がれることとなりました。

終戦して間もない昭和20（1945）年秋、東京女高師は国立女子大学の設立計画を立てますが、この計画は戦後の国費不足により見送りとなりました。そして、その後も紆余曲折を経て、昭和23（1948）年、ついに文部省が国立女子大学を設置する方針を出し、ようやく開学が決定します。しかし、文部省は教養や教員養成を主とする大学を想定しており、それは学術研究を主とする大学を志向する東京女高師の意とは全く異なるものでした。そこで、学校関係者は懸命な交渉を幾度も重ね、最終的には女子の最高学府としての長年の歴史と実績が認められ、昭和24（1949）年5月に学術研究の府としてお茶の水女子大学が開学することとなりました。

お茶の水女子大学は明治8（1875）年の創立以来、黒田や牧田の他にも、日本で初めて女性博士となった保井コノや国際的に活躍した物理学者の湯浅年子など数多の先駆的な女性研究者を輩出してきました。その伝統を引き継ぐ大学の使命として、現代社会に必要とされる高度な教養と専門性を備えた研究者、広くは女性リーダーの育成を目指し様々な取り組みを行っています。例えば、グローバルに活躍する研究者やリーダーを育てることを目標にカリキュラムを開発している他、海外研究活動や留学を支援する多彩なプログラムを設けています。また、お茶の水女子大学の学生や研究者が女性としてのキャリアとライフプランの両立を実現するために、学内保育所「いずみナーサリー」の設置などのサポート体制を整備しています。さらに、「特別研究員制度」(通称「みがかずば研究員」)では女性研究者の活動を支援し、出産や介護などのライフイベントにより研究を中断した女性研究者が現場に復帰する機会を提供しています。

今年日本初の女子大学生が誕生して100年目の記念の年にあたります。そこで、お茶の水女子大学歴史資料館では、10月15日（火）より平成25年度企画展示「日本初の女子大学生誕生100年 黒田チカと牧田らく」を開催します。日本初の女子大学生誕生の経緯や、黒田や牧田の人物像、現在のお茶の水女子大学の取り組みなどについて、写真パネル約50点を中心に当時の資料を交えて展示します。また、常設展示ではお茶の水女子大学の歴史や明治期に昭憲皇太后から下賜された品々などの貴重資料を特別公開いたします。この機会にぜひご来館いただき、女子教育や女性と研究について改めて考える機会としていただければと思います。



お茶の水女子大学開学記念式の日
の正門[昭和24年/お茶の水女子大
学附属図書館]

お茶の水女子大学歴史資料館企画展示

「日本初の女子大学生誕生100年 黒田チカと牧田らく」

会 場：お茶の水女子大学歴史資料館（大学本館1階121室・136室）

会 期：平成25年10月15日（火）～11月8日（金）

休 館 日：10月20日（日）、27日（日）、11月4日（月）／開館時間：12時30分～16時30分（入場無料）

お問い合わせ：お茶の水女子大学 図書・情報チーム 情報基盤係 Tel. 03-5978-5567

e-mail: shiryo@cc.ocha.ac.jp URL: http://archives.cf.ocha.ac.jp/info_kikaku_2013.html

アクセス：東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅より徒歩7分 東京メトロ有楽町線「護国寺」駅より徒歩8分
都営バス「大塚二丁目」停留所下車徒歩1分

主 催：お茶の水女子大学歴史資料館

協 力：東北大学史料館 兵庫県立美術館 独立行政法人理化学研究所広報室記念史料室

資料の公開について.....

◆特定歴史公文書

新たに特定歴史降雨文書631点の公開を開始しました。主な内容は下記の通りです。

●学務部入試課移管教務関係文書

2003年に移管された文書です。内容は教務関係一般にわたりますが、代表的・特徴的なシリーズとしては、(1)大学院特別研究生関係、(2)現職教育講座関係、(3)工業教員養成所関係、などがあります。(1)は戦時下における優秀な若手研究者の確保養成のための方策として1943（昭和18）から実施された制度で、戦争終了後も継続され戦後の学術界を担う多くの研究者を支える制度となったものです。(2)は戦後の新しい学校制度の施行に伴い小・中・高校の教員免許資格および免許状取得のための現職教育を夏休み期間中に国立大学でおこなうことになったもので昭和30年まで実施されました。(3)は1960年代に高度経済成長への対応のため多数の工業高等学校が増設され、その教員を養成するために全国9つの国立大学に設置された学校の資料です。このほかにも、卒業式関係、附属学校関係（教育学部附属小・中学校など）などの文書が公開されています。



●留学生課移管文書

同じく2003年に移管。昭和30年代から40年代にかけての外国人学生の受入に関する文書です。

●学務部学生課移管文書

昭和20年代から30年代にかけての資料、特に学生運動に関する資料が特徴的です。昭和25年のイールズ事件に関する文書のほか、昭和20年代後半の学生運動に関する文書には、当時の学生運動の状況が克明に記されています。

●財務部資金管理課移管文書（奨学寄附金等金銭出納帳）

研究所・学科等の設立や拡充に際し寄附を受けた奨学寄附金の金銭出納帳。昭和15年から35年頃までのもので、農学研究所、医学部航空医学講座、医学部附属病院、工学部工業力学科、選鉱製錬研究所、理学部硝子工場・原子核研究室等の設置ないし整備に係るものが含まれています。

●平成24年度移管文書

平成23年度末で保存機関を満了し各部局等から史料館公文書室に移管された合計111点の法人文書ファイルです。「東北大学の在り方に関する検討委員会」関係などが含まれます。

◆個人文書

●法文学部教員適格審査委員会関係（石崎政一郎文書Ⅱ）

法文学部教員適格審査委員会は、1945年（昭和20）10月および1946年（昭和21）1月のGHQの指令に基づき出された昭和21年5月7日の文部省訓令によって設置された「大学教員適格審査委員会」の一つ（総合大学である東北帝国大学では当初学部単位に委員会が設置された）です。所蔵していたのは東北帝国大学法文学部で社会法論講座の担当教授であった石崎政一郎（1985～1972）。石崎は同委員会の幹事として事務的なとりまとめを担当していました。資料の中には、文部省に提出した適格審査関係の報告書に加え、法文学部委員会内での検討に際して収集・作成された諸資料、審査対象となった教官との往復書簡等が含まれており、同委員会での検討の様子を具体的に知ることができる良質の資料です。



史料館のうごき.....

◇黒田チカ資料の受贈

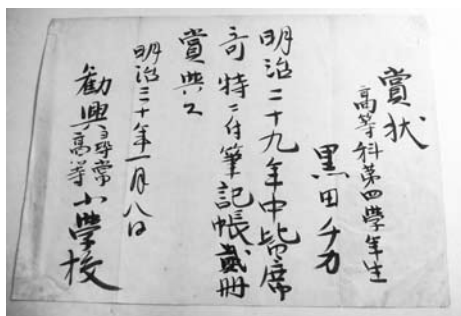
1913年（大正2）に日本初の女性大学生の一人として東北帝大に入学し、その後大正から昭和にかけてわが国女性化学者のパイオニア的存在として活躍した卒業生・黒田チカ（1884-1968）の関係資料が、このほど遺族から本学に寄贈されることになりました。



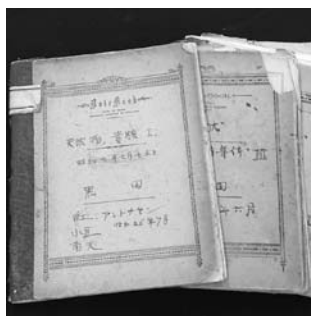
黒田チカは、東京女子高等師範学校を卒業し同校助教授をつとめていた大正2年に東北帝国大学を受験し合格、丹下ウメ・牧田らくとともにわが国初の女性大学生となりました。大学では戦前期の日本を代表する有機化学者・眞島利行の指導を受け、卒業研究としててがけた紫根の色素シコニンの研究に着手。1916年（大正5）卒業にともない日本初の女性学士となり、その後大学院を経て母校女高師に復帰。1922年（大正11）からは文部省留学生として英国に留学。帰国後は理化学研究所にも籍を置き、1929年（昭和4）に紅花の色素カーサミンの研究でわが国二人目の女性理学博士となりました。その後も様々な天然色素の研究で成果をあげ、戦後には玉葱の外皮色素に含まれるケセルチンの血圧降下作用に注目し、医薬品として実用化されたことでも知られています。

今回本学に寄贈されることとなった資料は、幼少時代から1968年（昭和43）の逝去までの彼女の生涯にわたる資料が含まれ、恩師眞島利行ほか周囲の様々な人々との間でやりとりした大量の書簡類、写真、数多くの研究ノート、研究室で着用していた実験着などなど、明治から昭和という時代を生きた一人の科学者、一人の女性の全体像を知ることが出来る、大変貴重な資料群です。その一部は、お茶の水女子大学所蔵の資料と共に、日本化学会による化学遺産（第019号）の認定を受けています。

黒田チカ資料は、今後東北大学史料館が保存管理し、整理が完了次第一般に公開する予定です。調査整理にはまだまだ時間がかかる見込ですが、9月27日（金）からの企画展「女子学生誕生-100年前の挑戦」で、寄贈資料の一部を展示紹介いたしますので、是非ご覧下さい。



高等小学校時代の賞状



黒田の研究ノート

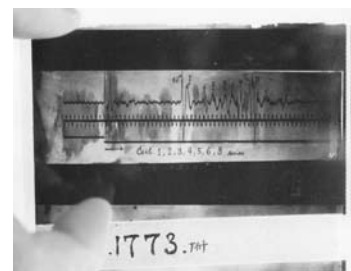


恩師眞島利行からの大量の書簡

◇小川正孝ニッポニウム研究関連資料の「化学遺産」認定

当館が所蔵する小川正孝（化学科初代教授・初代理科大学長・第4代総長）の「ニッポニウム」研究関連資料が、今年3月の日本化学会春季総会で化学遺産認定（第018号）を受けました。

「ニッポニウム」は当時追試による確認ができず、日本人初の元素発見と認められませんでした。近年に至り小川が発見した元素がのち1925年にノダックによって発見公表された75番元素レニウム（Re）であったことが確認され、業績が再評価されるに至っています。



ニッポニウムのX線スペクトルを記録した写真乾板

秋の土日開館と企画展のご案内

今年も、秋の土曜・日曜開館を実施いたします。この間、女子学生入学100周年、史料館創立50周年などを記念して、下記の企画展等をおこないますのでぜひお運び下さい。

●土曜・日曜開館実施期間 **平成25年9月28日(土)～11月10日(日)**

※土曜日・日曜日の開館時間は**午前10時～午後4時30分**となります。※祝日(10/14、11/4)は休館いたします。

◆東北大学女子学生入学100周年記念

女子学生の誕生-100年前の挑戦

9/27(金)～12/27(金)

1913年夏、創立3年目の東北帝国大学に、3人の女性が入学しました。彼女たちこそ、大学教育の門戸をこじ開け、多くの女性たちが続く道を開いた先駆者となった女性たちです。

女性大学生の誕生100周年を記念し、この百年前の「挑戦」について、当時のナマの資料をもとに紹介します。

黒田チカさん自身に当時の思い出を語ってもらった肉声、このほど本学に寄贈されることとなった「黒田チカ資料」なども初公開です。



黒田チカ 牧田らく 丹下ウメ



◆東北大学史料館創立50周年記念

東北大学と「大学アーカイブズ」の50年

東北大学史料館が日本の大学アーカイブズと共にたどった半世紀のあゆみを紹介します。

9/27(金)～10/13(日)、11/12(火)～12/27(金)

◆日本思想史学会共催展示

むらおかつねつぐ 村岡典嗣展

「日本思想史」研究の開拓者として知られる学者の知の足跡を、ナマの資料をもとに紹介。

10/17(木)～11/10(日)



●東北大学附置研究所一般公開

片平まつり2013 10/12(土)～13(日) 東北大学片平キャンパス

史料館テーマ「タイムマシンに乗ってみたい?—アインシュタインにも会えるよ—」

体験コーナー：片平キャンパス歴史散歩／マシン・ボート体験／むかしの学生の服を着てみよう!

●当館共催展示会のおしらせ 吉野作造記念館企画展 **吉野作造と近代中国**

平成25年10月27日(日)～12月28日(土) 開館時間 9時～17時

会場：吉野作造記念館(宮城県大崎市古川福沼1-2-3 JR 陸羽東線・東北新幹線古川駅下車)

近代デモクラシーの旗手・吉野作造(旧制二高出身)と近代中国の知識人との交流や人的ネットワークを紹介し国境を越えた知的交流のありかたを考える企画展です。当館が所蔵する、魯迅や東北大学の留学生に関する資料も出陳されます。

東北大学史料館だより 第19号 2013年9月25日発行

編集・発行 東北大学学術資源研究公開センター史料館

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1 TEL 022-217-5040

E-mail desk-tua@library.tohoku.ac.jp URL <http://www2.archives.tohoku.ac.jp/>